

派遣報告書

令和 6年 2月 5日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会 会派 やらいや
(代表) 議員 藤井 隆弘

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

記

- 派遣期間 令和6年1月30日(火)から令和6年2月2日(金)まで
- 派遣先 (1) 東京都新宿区
(2) 新潟県三条市
(3) 新潟県十日町市
- 視察(調査)議員名 藤井 隆弘
- 面会者 (1) 東京都新宿区 小田急電鉄デジタル事業創造部課長 阪川尚氏
同課長代理 小笠原年宏氏
(2) 新潟県三条市 三条市教育委員会事務局 相場徹氏
(3) 新潟県十日町市 十日町市文化観光課課長 斎喜直氏
十日町市議会事務局議事係 網翔太氏
- 派遣目的 (1) 暮らしよし倉吉プロジェクトの取組について
(2) 三条市子ども・若者総合サポートシステムについて
(3) 越後妻有里山現代美術館と大地の芸術祭について
- 視察の経過及び感想
別紙参照
- 添付書類
(1) 面会者名刺(写し)
(2) 視察先提供資料(写し)
(3) 写真

要した経費： 人合計 円

視察・調査の経過及び感想

(1) 東京都新宿区（くらしよし倉吉プロジェクトの取組について）

〔視察の経過〕

小田急電鉄デジタル事業創造部課長阪川尚氏と同課長代理小笠原年宏氏より事業概要と今後の方向性などについて説明を受ける。

小田急電鉄では、倉吉市「ひとを育て、まちを育てる、くらしよし倉吉プロジェクト推進業務公募型プロポーザル」に採択され、2023年7月19日から2024年3月31日まで、人材育成を起点とした地方創生の加速と持続的なまちの発展に取り組んでいる。2022年度に倉吉市とともに、宿泊型人材育成プログラムを実施し、参加者間の対話を通じて多様性の理解を深めた上で、地方創生に取り組んだ。参加の倉吉市民からは、参加者間の交流の活発化、地域の魅力の再認識などの効果に加え、2025年春の「鳥取県立美術館」開業を契機とし、発信力を強化したいという声が上がった。倉吉市では、若年層の社会減、人口流出等による人手不足や、若者にとって魅力のある仕事の創出が課題になっている。活気あるまちづくりを目指す本公募業務では、人材育成を中心に魅力の発信やデジタル環境整備などの全4事業（①中核人材育成事業②倉吉の魅力発見・データ整備事業③デジタル教育事業④バーチャル倉吉事業を連動させ、倉吉市民が主体となる自走型の地方創生を支援することとしている。現段階は実りをすぐに採るのではなく、根をしっかりと張り、幹を太くして、確かな実りを得るための第1段階である。

〔感想〕

パワーポイントを使用しての説明を受けた後質疑を行い、次の点について質問した。

問まちづくりの例として下北沢、箱根、熱海といった例を挙げられたが、地方のまちである倉吉ではマスコミ等のインパクト、人材の層等かなり異なる面がある。今回初めて知ったことも多い。行政も含めて情報提供をしっかりとしてもっと事業の見える化することが必要ではないか。

答確かに情報提供が大切である。そのため、単年度事業ということではなく、5年程度のビジョンは考えている。

○この事業は今年度緒についたものであり、全体像を初めて直接聞くことが出来た。次年度以降の取組みについて関係者・関係機関の共通理解が必要である。

(2) 新潟県三条市（三条市子ども・若者総合サポートシステム事業について）

〔視察の経過〕

三条市教育委員会事務局相場徹氏より説明を受け、事前質問の回答もいただく。

三条市では、虐待やいじめ、不登校、発達障がい、引きこもりなど、様々な問題で支援を必要としている子ども・若者に対し、乳幼児から就労に至るまで継続的かつ総合的な支援を行うことを目指し「三条市子ども・若者総合サポートシステム」を整備している。

「所属機関が変わると、支援が途切れるのではないかと心配だ。」「困っているけど、どこに相談したらよいか分からない。」等の声に対応するため、保育所（園）や幼稚園、小・中・高等学校など子ども・若者の所属機関や相談支援機関など子ども・若者に関係する機関・組織が連携して、切れ目なく個々に応じた支援を行う仕組みが作られ、所管が教育委員会に子育て支援課として一元化されている。

〔事前質問事項〕（一部のみ掲載）

問子育て支援課が教育委員会に一元化された経緯（背景、理由等）は何か。

答前市長の子育てに関する思いが一番である。

問所管を教育委員会にした理由は何か。

答教育委員会の中で全て完結できるようにするためである。 等

〔感想〕

説明を受けた後質疑を行った。次の点について感想と質問をさせていただいた。

問子育てに関し一元的に、しかも義務教育以降も切れ目なく支援が行われていることは非常に参考になる。年中児発達参観は専門の方も参観されているが、それを受けて就学指導委員会につなげる（指導者の配置や特別支援学級設置など）ことになっているのか。次に実務者会議は4部会それぞれ20名近くと数が多く、個別ケース検討会議は令和4年度61回開催されている。会議はどのような形でおこない、参加者は全員なのか。会議が多すぎて会議疲れになったりしないのか。

答子育て支援課と学校教育課は日常的に連携しており、子どもに関して共通理解をしながら就学指導にもつなげている。個別ケース検討会議は必ず全員参加ということではない。必要に応じて適切なメンバーで行うこととしている。

○子育て・若者サポートが一元化されていることは、関係者にとってわかりやすいシステムで、倉吉市においても参考となる取組である。

（3）新潟県十日町市（越後妻有里山現代美術館と大地の芸術祭について）

〔視察の経過〕

十日町市文化観光課課長斎喜直氏より越後妻有里山現代美術館と大地の芸術祭について説明を受け、その後美術館内を案内していただいた。

大地の芸術祭は、地域活性事業の柱として「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」が2000年に始まった。アートを媒介にした地域づくり・地域おこし。これまで8回開催され、事業費は約6億、実際には市の持ち出しは1回につき15億。芸術祭の効果として2022年度は入込客数57万人、109集落参加、経済波及効果は83億。芸術祭期間中は、越後妻有里山現代美術館をはじめ地域の里山・棚田・空家や廃校等も含め地域を挙げての芸術祭となる。大地の芸術祭がもたらしたものとして、地域の復興と再生、地域住民の参加、関係人口の増加（へこび隊、FC越後妻有、地域おこし協力隊等）もある。課題としては、持続的な財源の確保・担い手となる人材の育成、確保・観光受入体制と経済効果拡大がある。

越後妻有里山現代美術館 MonET は、現代美術を収蔵した美術館で圏域全体のヒト・モノ・情報が交差する場として、建築家原広司氏が設計。コンクリート打ちっばなしの正方形の建造物で、真ん中は屋根のない吹き抜けで通常時は池になっているが、冬季は雪原、3年に1度の大地の芸術祭の期間中は特別展示の会場となる。2階の回廊には常設展示、ミュージアムショップ、カフェレストラン「越後しなのがわバル」、コミュニティFMエフエムとおかまのスタジオと事務所がある。

〔感想〕

説明を受けた後質疑を行った。次の点について感想と質問をさせていただいた。

問大地の芸術祭ができたのは、1人の首長の思いがあったとのことだった。関係6エリアの議員は反対、首長の多くも反対の中で実現できたのは本当のところはどうしてなのか。

答この地域は人口減少、高齢化が進んでいる。平成の市町村合併で事業に補助金が10年間出ることとなっていた。1994年新潟県知事が提唱した広地域活性化政策「ニューにいがた里創プラン」に則り、アートにより地域の魅力を引き出し、交流人口の拡大等を図る10カ年計画「越後妻有アートネックレス整備構想」を掲げた。地域の衰退に危機感を持っていた一首長がリーダーシップをとった。この事業のアドバイザーとして、アートディレクター・北川フラムに声が掛かり、前向きに動き始めスタートとなった。

○倉吉市も令和7年3月30日には鳥取県立美術館が開館予定であり、年間に20万人の来倉が見込まれている。地域の賑わいを創出し、観光客や交流人口、移住定住等に向けた取組が求められる。美術館を活用したまちづくりの参考となった。



デジタル事業創造部
課長代理
IFLATSフェロー

小笠原 年宏

小田急電鉄株式会社
〒163-0705
東京都新宿区西新宿2-7-1 私書箱 第5117号
携帯 070-7363-5376
toshihiro.ogasahara@odakyu-dentetsu.co.jp
https://iflats.org/

小田急の駅、車両のポスターを再生した紙を使用しています



デジタル事業創造部
課長
IFLATSチーフプロデューサー

阪川 尚

小田急電鉄株式会社
〒163-0705
東京都新宿区西新宿2-7-1 私書箱 第5117号
携帯 080-9984-8155
hisashi.sakagawa@odakyu-dentetsu.co.jp
https://iflats.org/

小田急の駅、車両のポスターを再生した紙を使用しています

三条市教育委員会事務局
子どもの育ちサポートセンター
センター長

相場 徹

Aiba Toru

SANJO

☎ 0256-45-1114
☎ 0256-45-1130
✉ kodomosupport@city.sanjo.niigata.jp
〒959-1192 新潟県三条市新堀 1311

清津峡溪谷トンネル



Photo by Tsutomu Yamada

十日町市
議会事務局 議事係

主事 網 翔 太

〒948-8501
新潟県十日町市千歳町3丁目3番地
TEL (025) 757-3119
FAX (025) 757-5999
E-mail tsuna1724@city.tokamachi.lg.jp

大地の芸術祭 Tunnel of Light(マインソング/MADアーキテクツ)



課 長
事務局長

十日町市 産業観光部 文化観光課
大地の芸術祭実行委員会事務局

齋 喜 直
Saiki Tadashi

〒948-0079
新潟県十日町市旭町 251 番地 17
十日町市総合観光案内所内
TEL.025-757-2637 FAX.025-757-2285
E-mail: saiki1326@city.tokamachi.lg.jp
URL: http://www.echigo-tsumari.jp/



1月30日(火) 東京都新宿区 小田急電鉄
(くらしよし倉吉プロジェクトの取組について)



1月31日(水) 新潟県三条市

(三条市子ども・若者総合サポートシステムについて)



2月1日(木) 新潟県十日町市

(越後妻有里山現代美術館と大地の芸術祭について)

